

# 未来を開く

長井市立長井北中学校

No77 令和4年 2月 2日

## 『北嶺』に綴(つづ)る

令和3年度の「学校文集『北嶺』」の編集作業が進んでいる。  
「気持ちを新たに」として、次の拙文を記した。

- 今年度は、「磨き鍛えた40年／より／たくましく／あたたかく」というスローガンを掲げてスタートしました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響が、これほどまでに長く、そして繰り返しあろうとは、誰が予想したでしょうか。先の見とおせない中でしたが、この一年間、しなやかにかつ着実に、よくぞ歩み続けました。運動会では競技や応援が制限された中でも、見事なパフォーマンスを展開。部活動ごと、工夫しながら取り組んだ全校ボランティア。地域のために何ができるか、知恵を出し合いました。そして、創立40年記念行事。本校卒業の梅津 碧さんによる長井北中学校校歌の歌唱に、心震わせました。また、



南中学校の全校生徒とともに市民文化会館で宇宙飛行士の毛利 衛さんからお話をお聞きし、夢と希望を膨らませ、環境を守るためにできることを考えました。三年生は約一年、二年生は三か月の間、待ちに待った修学旅行。方面や期日が変更にはなったものの、同じ屋根の下で



寝て、同じ釜の飯を食べ、同じ風呂に入った経験は、何物にも代えがたい思い出となったことでしょう。さらには、高度で美しいハーモニーを響かせた合唱コンクール。「できない」は、みんなでやれば「ここまでできる」を実証してくれたのはさすが北中生でした。

■創立当時の生徒数は683名、今年度はその半分にも満たない266名。春が過ぎた頃、学校にいらっしゃった元校長先生は、こう語られました。

「生徒数は半分以下になっても、校舎の中は、創立以来とても綺麗に掃除や整頓がされている。これが伝統なんだなあ・・・。」

■先輩方が、40年にわたり築き上げ、受け継いできた伝統や校風を継承することは、たいへん努力を要することです。しかも、コロナ禍において感染予防対策をしながら、「何ができるか、どのようにできるか」と模索と選択の連続の中で、新たな事を興してきた皆さんの実績は、北中の歴史に燦然と輝くこととなるでしょう。

■「人生は選択の連続、その積み上げで『今』がある。」という言葉に出会いました。高校や、大学、会社や住居など大きな選択もあれば、どんな映画を観るか、どの本を読むか、お小遣いを何に使うか、友人の誘いを受けるか断るかなどの小さな決断でも、その後が大きく変わっていたのではないかと、思い悩むことがあるでしょう。しかし、「自分の(自分たちの)選択は、全て正しく最良だった。」と思えるか否かで、その後が大きく変わります。「選んだのは自分ではない」と思ったその瞬間、不平や不満愚痴がわいてきます。

■今後どのような選択をしようとも、「選んだのは自分」と気持ちを新たに、創意と工夫、そして笑顔で行動を重ね、創立41年の第一歩につなげていきましょう。



# スキー授業が終了

雪国ならではの冬のスポーツ「スキー」。第1・2学年の保健体育科の授業として実施。今年度は1月31日をもって終了。

毎年1・2学年で行っているスキー授業。例年長井市道照寺平スキー場と山形市蔵王温泉スキー場で行っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、道照寺平スキー場での2回の授業に変更して行いました。

スキーの準備や学校への運搬等でご協力をいただき、ありがとうございました。

今年度も、卒業式まであと2か月。今後もさまざまなお願いや急な変更をお願いすることもあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。



上:2年生全員集合!  
左・下:晴天に恵まれた1年生のスキー教室



## 心のとびら

言葉の  
大切さを  
考える

### ◇「行ってきます」◇

ー行って必ず帰ってきますーという約束

### ◇「行ってらっしゃい」◇

ー行ったら必ず帰っていらっしゃいーという無事を祈る気持ち

### ◇「ただいま」◇

ーただ今無事に帰りましたーという報告

### ◇「おかえり」◇

ーよく帰ってきたね。よかったよかった。ーという相手が無事で本当にうれしい気持ち

言葉一つで仲良くなったり 傷つけたり…  
使うたびに心が温くなる言葉  
それが世界共通の「思いやり」